# ～心記想伝～ 人生を時計に置き換えてみて・・・

一生を1日に置き換えてみる「人生時計」には、さまざまな計算方法が存在していますが、自分の一生を24時間の時計に例えてみる方法で、例えば日本人男性の平均寿命は82歳。1時間で3.4歳ずつ年齢を重ねていく計算で、（この計算式がすべてではありません）

年齢と時間に例えるなら、中学生なら4時台の夜明け前で、将来は無限の可能性が開けている。20歳は6時で人生の扉が開いたばかり、30歳は9時で人生これからが本番、40歳は正午となりこれからの自分を歩むとき、65歳は夜の7時で太陽は沈んでいるがこれからの人生に何を残していくかを考えるとき、24時（夜中の12時）を過ぎる年齢の方も当然いらっしゃいますが悲観する必要はなく、人より長く1日が楽しめている、夜更かしして起きていてもかまわない。

これから人生をどう楽しむか、そのような考え方で今まで生きてきた足跡、大切なこれからの人生設計をどうしていくか、という指標として考えられてはいかがでしょうか・・・。

人生の中で異なってくるのは個々の寿命であることはもちろんのことですが、どのように生きられたかの中身については、自分自身の現状を客観的に理解し、「※自分軸」に沿ってどれだけの行動が出来たのか、自分のいいところも悪いところも受け入れ、向上心を感謝の念をもって生きてこられたかによって、人生充実度には結構な違いがでるものと思います。

## 「※周りの価値観や流行、他人の評価を気にせず自分自身の意志を大切にする考え方」

「人は必ず死ぬから/いのちのバトンタッチがあるのです/死に臨んで先往く人が「ありがとう」と言えば/残る人が「ありがとう」と応える/そんな一瞬のバトンタッチがあるのです/死から目をそむけている人は見そこなうからもしれないが/そんないのちのバトンタッチがあるのです」

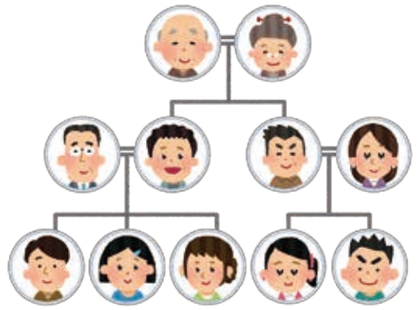
映画『おくりびと』のモデルといわれる作家さんが生前に残した詩です。葬祭業に従事する立場として、この言葉のなかに秘められた意味「命の重さと尊さ」とは何であるかを考え、人と人が繋がるということの温かさであり、ありがたさの意味を伝えていくことができればと思っています。

# 家系図を書いてみよう！

皆様は家系図を見たり、書いたことはありますか？

故人様を中心に、過去をさかのぼり、家族関係を調べることで、相続が発生した時の相続人を確認したり、お葬儀の際、どこまで声をかけるかの基準になります。

最近では、一般の会葬者を呼ばずにご親族だけで「家族葬」を執り行うことも多くなっていますが、どこまでの親族に声をかけるかという目安に使われます。



たとえば・・・

①ご入院中で危篤の際、病院に来ていただきたいご親族
②葬儀に参列していただきたいご親族
③葬儀が終わったあとにご報告をすればよいご親族

のように、大まかに分けることで、もしもに備えた準備をすることができます。

私たちが、**「家族葬にどんなイメージをもっていますか？」**と尋ねると、大抵の方から**「小規模で面倒がなさそう」「金額が抑えられそう」**といったお言葉をいただきます。

しかし、お葬式は大切な故人様を見送る最期の時間です。

これも終活のひとつ、皆様が自分のお葬式について考えるきっかけになればと思います。

ドリーマーでは、ご希望の方に家系図を書き込めるエンディングノートや、お葬儀の打ち合わせの際に家系図をお渡ししています。

詳しく知りたい方は、いつでもドリーマーにお問い合わせください！

# ご当家に寄り添えるスタッフを目指して

5月から御葬儀の打合せをさせていただくようになりました。

ご当家のお気持ち、考えを具体的なかたちにしていくということは、難しさを感じつつも大変意義のあることで、大きな責任を負うことだと痛感している最中です・・・。

当然のことですが、一言に「ご当家」と言っても、考え方や故人様へのお気持ちは様々です。

もともと人付き合いが苦手で、口下手な性格なので、相手に寄り添ってうまく提案したり、打合せをすることは想像しているよりも大変なことだろうなと思っています。

それでも、相手の話を聞き、気持ちを読み解くことで、一生に一度のセレモニーを「忘れられない記憶」としていただけるよう、これからも日々の業務を頑張っていきたいと思います！